

和歌の修辞を攻略し、 苦手意識を払拭しよう!

和歌に出くわすと、急に読解のスピードが落ちてしまう。和歌が訳せないため本文の内容がつかみづらい。和歌の設問だと得点できないなどと、和歌に苦手意識をもつ人は多いはず。掛詞や序詞などの和歌独特の表現を理解することで、苦手意識を払拭しましょう。

東進国語科講師・富井 健二先生による紙上講義!



POINT 1

掛詞に気づき、得点に結びつける!

掛詞とは一つの語に、発音の同じ二つの語の意味を掛けて用いる修辞法です。いわゆる「しゃれ」ですね。ひらがなになっている名詞か動詞に目をつけること。では次の例題を解いてください。

例題1 次の和歌では何と何が掛けられているか。漢字まじりで書きなさい。
「眺むれば山より出でて行く月も世にすみわびて山にこそ入れ」
(源氏物語)

「すみ」は平仮名になっている動詞ですね。前に「月」とありますので、「すみ」の一方の表記は「澄み」。これに汚れて住みにくい世の中に住む意の「住み」が掛けられています。よって解答は「澄み・住み」になります。次の口語訳も見てください。

(訳) 「空を眺めていると、山の端からのぼってゆく澄みわたる月もこの世を住みにくく感じて山に入っていくではないか。」

例えばセンター試験や模試などで、「本文の和歌の解釈として正しいものを選び」という設問だと「澄み」と「住み」という二つの意味で訳してあるものを解答から選ぶことになりますね。

+α 覚えておく掛詞

良く出題される掛詞は、覚えたものの勝ち! まずは次をチェック。
 かる(枯る・離る)・まつ(待つ・松)・ながめ(長雨・眺め)
 あふ(逢坂・逢ふ)・ふる(古る・降る・経る)・あき(飽き・秋)
 すむ(住む・澄む)・うき(憂き・浮き)・なる(成る・鳴る・鳴海)



POINT 2

序詞と掛詞の違いを見極める! 例えか否かそれが問題!

序詞とはある言葉を導き出すために、その前に置かれる、歌の主旨には直接関係のない修飾部分です。基本的には和歌の最初から始まる六文字以上の例えの部分が序詞。次の赤字の部分を見てみましょう。

瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末にあはむとぞ思ふ (詞花集)
(訳) 流れがはやいので、岩に二つに分けられる滝川のように別れてもその後、逢おうと思うのだ。

「小倉百人一首」にも撰集されている有名な崇徳院の歌ですね。岩に当たって二つに分かれた後に合流する滝川の水の流れの様子を、別れても必ず逢おうという男女の関係に例えた歌です。一瞬、掛詞と思われる表現ですが、「われ」の前の「瀬をはやみ～滝川の」の箇所が、完全に歌の主旨とは関係のない例えになっていることがわかりますか? そうです。これが序詞なんですよ。**例題1**の「眺むれば」の歌と比較すればその違いがよくわかると思います。「眺むれば」の歌は「すみ」の前の部分「眺むれば山より出でて行く月も世に」のすべてが例えにはなっていませんからね。(訳)を見てください。序詞と導かれる部分の関係には以下の3パターンがあります。これらを理解し、**例題2**にチャレンジしてください。

東進国語科 古文講師・富井 健二先生

入試に必要な不可欠な、古文単語と古文読解を“ビジュアル”解説。基礎から応用まで難なくマスターさせ、古文が読めない受験生を根絶させる実力熱血講師。古文を簡単明瞭に解き明かし、速読の秘訣や古文特有の「教養」を伝授していく授業は、毎回受講生をうならせる。



序詞と導かれる部分の関係の3パターン

- 【意味の関係】深いことをいうための例えの関係。
飛ぶ鳥の声も聞こえぬ奥山の深き心を人は知らなむ (古今和歌集)
(訳) 飛ぶ鳥の声も聞こえない深い山奥のような深く思う気持ちをあなたは知ってほしい。
- 【音の関係】植物のあやめと文目(=道理)のような音の関係。
ほととぎす鳴くや五月のあやめ草あやめも知らぬ恋もするかな (古今和歌集)
(訳) ホトトギスが鳴く五月に咲く菖蒲草ではないが、ものの文目(=道理)もわからないような恋をすることよ。
- 【掛詞的な関係】衣を「張る」と「春(雨)」が掛詞。
わが背子が衣はるさめ降るほどに野辺の緑ぞ色まさりける (古今和歌集)
(訳) 私の夫の衣を張るその張るではないが、春雨が降るたびごとに、野辺の緑が色濃くなっていくよ。

例題2 傍線部に使用されている修辞として適当なものを後のイ～ニの中から選べ。

「みかの原わきて流るるいづみ川いつみきとてか恋しかるらむ」
(古今和歌集)
イ 掛詞 ロ 枕詞 ハ 縁語 ニ 序詞

枕詞・縁語についての説明は後にするとして、ここでは「いづみ川」の「いづみ」と「いつみきとてか」の「いつみ」が同音になってますね。第三句までが「いつみ」を導く序詞です。解答はニですね。訳も確認しておきましょう。赤字の部分が例えになっていますね。

(訳) みかの原を分けて流れる泉川の、その名のいつみではないが、いつ見たからといってあなたのことがこんなに恋しいのであろうか。

序詞が使用されている和歌が出題された場合、例えの解釈となっている選択肢を正解にしてください。ではここでもう一度おさらいをしておきましょう。

+α 序詞の見つけ方

- 【比喩の「の」のある部分までが序詞】
吉野川岩波高く行く水のはやくぞ人を思ひそめてし (古今和歌集)
(訳) 吉野川の岩に当たり、高い波を上げて流れる水が速いように、私があなたを好きになったのも早くからだだよ。
- 【同音があれば2つ目の手前までが序詞】
駿河なる宇津の山辺のうつつにも夢にも人に会はぬなりけり (新古今和歌集)
(訳) 駿河の国にある宇津の山を今越えていく、そのうつつではないが、現実にはもちろんのこと夢でもあなたに会わないことですよ。
- 【掛詞の手前までが例えになっている序詞】
風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君が一人越ゆらん (古今和歌集)
(訳) 風が吹くと沖は白波が立つ(その立つではない)が、龍田山をあなたは一人で越えていくのだろうか。

裏面へ続く! ➡



POINT 3

枕詞は序詞より短い!

枕詞とは、ある言葉を導き出すために、その前に置かれる修飾語です。先ほど序詞を習いましたが、序詞が六文字以上であるのに対し、**枕詞は五文字**（四文字もありますが）です。枕詞とそれがかかる語は固定しているので重要なものは覚えておきましょう。**訳す必要はありません**ので、解釈の問題として出されることはまずありません。和歌の中に枕詞が使用されているということがわかれば、とりあえずオーケーです。

枕詞とそれがかかる語の関係

1.【意味の関係】 弓を引く・張るという意味上の関係。

梓弓引けど引かねど昔より心は君に寄りにしものを (伊勢物語)
 (訳) あなたが私を愛してくれようとかれまいとかまいません。
 以前からわたしはあなたに心ひかれていたのですから。

2.【音の関係】 「つがのき」と「つぎつぎ」の音が類似。

つがの木のいやつぎつぎに天の下知らしめしを (万葉集)
 (訳) 神は次々と天下を統治さなされたのだが

枕詞の部分は解釈にあらわれていないことを確認しましょう。
 では **例題3** を解いてください。

例題3 空欄に入れるのに最も適当な言葉を次の中から1つ選べ。

「〔 〕月だに日の光をかりて照れば、下また月の光をかりて
 つらぬきとめぬ玉ともちるなり。」 (横笛草紙)

- 1 ひさかたの 2 たらちねの 3 あをによし
- 4 ちはやぶる 5 あしびきの

選択肢はすべて枕詞です。「ひさかたの」は「光・天・月・雨」などを導く枕詞です。よって**1**が正解になります。枕詞を探す場合、以下の①～④の四つの点に注意して探すことが大切ですが、重要なものは覚えておくとよいでしょう。

枕詞の見つけ方

- ①初句か三句の中にある。 ②訳さなくてもよい。
- ③基本的に5文字。 ④「～の」で終わることが多い。

+a 覚えておく枕詞

よく出題される枕詞は、覚えたものの勝ち！
 以下の①～⑬だけでもチェックしておこう。

- ①あづさゆみ(梓弓)→引く・春・本・末・いる ⑦くさまくら(草枕)→旅・結ぶ
- ②あらたまの(新玉の)→年・月・日・春 ⑧しきしまの(敷島の)・
- ③あをによし(青丹よし)→奈良 あきづしま(秋津島)・
- ④うつせみの(空蟬の)→世・身・命・人 そらみつ(空見つ)→大和
- ⑤うばたまの(烏羽玉の)・ ⑨たらちねの(垂乳根の)→母・親
- ぬばたまの(射干玉の) ⑩ちはやぶる(千早振)→神・社・宇治・氏
- 夜・夢・黒・髪 ⑪ひさかたの(久方の)→光・月・天・雨
- ⑥からごろも(唐衣)→ ⑫もしきの(百敷の)→大宮
- 着る・裾・たつ・かへす ⑬わかかさの(若草の)→妻・夫



POINT 4

縁語は複雑で美しい相互の言葉の関係。掛詞のように訳す必要はない。

縁語とは中心となる語から連想される語を、意識的に歌の中に詠み込む手法を言います。例えば以下の赤字の「鈴」「ふり」「なり」の箇所は鈴を振るとリンと鳴るという関係でつながっていますね。ただし「鈴を振ると鳴る」と歌っても縁語とは言えません。あくまでも縁のある語ということなのです。

鈴鹿山憂き世をよそにふり捨てていかになりゆくわが身なるらむ
 (新古今和歌集)
 (訳) つらいこの世をふり捨てて鈴鹿山を越えていくのだが、この先わが身はどうなっていくのやら。

例題4 以下の和歌に使用されている修辭として適当なものを後のイ～ニの中から選べ。

「玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする」
 (新古今和歌集)
 イ 掛詞 ロ 枕詞 ハ 縁語 ニ 序詞

「玉の緒」とは命のこと。「緒」は糸や紐などものを貫いたり結んだりするものから、「絶え」「ながらへ」「弱り」などと縁語関係になります。よって解答はハですね。
 (訳) わが命よ。絶えてしまうのならば絶えてしまえ。生きながらえてこの恋をこらえて胸に秘める力が弱まり、人が気づくといけなから。

+a 覚えておく縁語

よく出題される縁語表現は、覚えたものの勝ち！
 以下の①～⑩だけでもチェックしておこう。

- ① 芦(あし)→刈り根(かりね)・一節(ひとよ) ⑥ 川→流れ・沈む・渡る・底(そこ)
- ② 藻塩(もしお)→焼く・焦がる(こがる) ⑦ 衣→着る・萎る(なる)・張る・褌(つま)
- ③ 糸→乱る・綻ぶ(ほころぶ)・縋る(よる) ⑧ 袖→結ぶ・裁つ・解く
- ④ 露→消ゆ・置く・結ぶ・玉・涙・命 ⑨ 煙→火(ひ)・くゆる・靡く(なびく)・焦がる
- ⑤ 草→萌ゆ(もゆ)・刈る・結ぶ ⑩ 緒(を)→永ふ(ながらふ)・絶ゆ・弱る

さて **POINT** や **+a** などの確認はできましたか。それでは最後に、君の力を試してみましょう。次の①～④の歌の修辭法をイ～ハから選んでください。



- ① 住の江の岸に寄る波夜さへや夢の通ひ路人目よくらむ (古今和歌集)
 - ② 山里は冬ぞ寂しさまさりける人目も草もかれぬと思へば (古今和歌集)
 - ③ 春日野は今日はな焼きそわかくさのつまもこもれり我もこもれり (万葉集)
 - ④ 袖ひぢてむすびし水のこほれるを春たつ今日の風やとくらむ (古今和歌集)
- イ 掛詞 ロ 枕詞 ハ 縁語 ニ 序詞

正解はwebで!

今すぐアクセス

解説授業を東進ドットコムで限定公開中!

Web限定・富井先生の特別解説授業はこちら!

www.toshin.com

学力増進号

検索



ハッキリ言って合格実績が自慢です!! 大学受験なら、

TOSHIN TIMES
 発行 東進本部
 発行人 永瀬昭幸
 本部 〒180-0003 東京都武蔵野市 吉祥寺南町1-29-2
 編集 株式会社ナガセ広報部
 TEL:0422-44-9001
 禁・無断転載

東進ハイスクール
 ☎.0120-104-555
東進衛星予備校
 ☎.0120-104-531
 東進 検索
 東進公式 Twitter 東進公式 Facebook
185大学の過去問も閲覧可!!
 東進ドットコムはスマートフォン・ケータイからもアクセスできます!